

策定にあたってのご意見	意見への取組 (案)
<p>●資料に関する質問</p> <p>1. 市民アンケートについて、以下の関連について教えてください                      ください                      (1) 孤食をしている高齢者(男女別)と居住形態との関連                      (2) 中高年層で、朝食に主食、主菜、副菜がそろっているか否かと、「カロリーの取りすぎ」との関連                      (3) 和食の摂取頻度と塩分の取りすぎとの関連</p> <p>2. 男性のための料理教室、生活習慣病予防料理講習会への参加状況を教えてください。後者については、特定健診保健指導で要指導となった方は参加しているのでしょうか。</p> <p>3. 児童の虫歯の処置割合と世帯所得との関連はありますか</p>	
<p>●資料に関する意見</p> <p>(1) 食育基本法に、食生活の改善のための活動に携わっている地域のボランティアとの連携協力を図ることの重要性が述べられています。食育の推進体制(資料4のスライド13-14)ではボランティアとの連携が含まれていないように思われます。資料5に掲載されている多様な食育関連の活動の実施には市内のボランティアが多数携わっているのではないかと想像しますので、ボランティアの役割や市との連携が見えるようにする必要がありますのではないかと思います。</p> <p>(2) 武蔵野市の食育が目指す姿(4のスライド12)に、「食に関するセルフマネジメント(自己管理能力)の推進」が掲げられています。そのため、武蔵野市民の食に関する自己管理能力をどのように測定するかを検討する必要があると思われます。</p>	
<p>●クックパッド武蔵野市の公式キッチン                      これからの世代に欠かせないアプリだと思う。年代別、季節ごとに充実させていくと利用が広がる。                      公共の機関だからできる全市民対象の役立つサイトに成長させてほしい。</p> <p>●次回に話題としたいことなど                      介護食について、宅配お弁当について</p>	<p>テーマ例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事制限のある方のメニュー</li> <li>・骨を強くするメニュー</li> <li>・武蔵野市でとれた季節の食材を使ったメニュー</li> <li>・お祝い事、行事に関するメニュー</li> <li>・アスリートの朝ごはん</li> <li>・高校生のお弁当</li> </ul> <p>カロリー、塩分、コスト、調理時間の表記                      人気の度合いを☆で表示                      もっと幅広く広報が必要</p>

<p>●共食の取組の充実について（2頁） 第三次食育推進基本計画(国)の重点課題2に掲げる「共食の機会に提供」を充実させる。地域に食を介した交流の場づくりを基本に食育事業としての多彩な展開を進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単身高齢者だけでなく40以上の男性単身者や孤食になりがちな子どもたち等も含めた世代を対象とする。</li> <li>・今年度<b>試行</b>実施している「夏休みコミュニティ食堂」の取り組みなどを生かしていく。</li> </ul>
<p>●甘味食品等の食べる習慣がなぜ高いのか（9頁） 1歳6か月、3歳児健診結果から、甘味食品、飲料を食べる習慣がある者の割合が都平均と比べて顕著に高く、保護者の食育意識に課題があると思われるので、対策を講じる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三歳児の食習慣に起因する悩みである野菜嫌い、甘いもの好きにつながっている可能性がある。</li> </ul>
<p>●武蔵野市の食育が目指す姿（12頁） ライフステージ軸の高年齢方向の「自らの力では困難さが伴うステージ」の対象年齢層について、40歳代からで妥当かの検証が必要ではないか。</p>	<p>自己管理すべき世代は、一般的に中高校生から60歳ぐらいまでと考えられるが、40歳以上のメタボリック罹患率、予備群の増加、カロリー<b>過多</b>などから、40歳代から特定の対象者を絞り込み、対策を推進する。</p>
<p>●武蔵野市の食育が目指す姿 緑豊かな街といえども都市化した武蔵野市にあって、山、川、海などの自然とはかけ離れたところに私たちは住んでいます。自然と触れ合えるものは食材だけなのかもしれません。私たちこそ健全な消費者として、伝統的な日本の食文化を守るために、食材の命に感謝し、味わい、環境を意識し、食品ロスを削減し、食品自給率を高め、農山漁村の活性化を担うための食育を推進していくことが求められているのだと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食を中心に捉えた地域づくり</li> <li>・義務教育終了までに自炊できる「こども」の育成</li> <li>・「ご飯と具沢山味噌汁を基本とした」食改善</li> </ul>
<p>●単身世帯をターゲットとして食育事業について 単身高齢者だけではなく40歳以上の男性単身者等をターゲットにした食育事業を推進する。</p>	<p>40歳以上のメタボリック罹患率、予備軍の増加、カロリー<b>過多</b>などから、食育の観点からも対策を講じる必要がある。</p>
<p>●【重点課題2】に多様な暮らしに対応した食育の推進について H29.9.1 委員会資料4 食育に関する情報・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育の日は、約9割の人に認知されていない。</li> <li>・武蔵野市提供のクックパッドの公開は、9割の人に認知されていない。</li> <li>・野菜適正摂取量の認知率は全体の5割であるが、若年層は約4割である。</li> </ul> <p>市民の健康づくりに関するアンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問28の市の相談窓口の健康センター（健康課）は約5割が知らないと回答している。20歳代～30歳代は、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コウノトリベジタブル事業を保健センター（保健課）にて、妊婦へ引換券のプレゼントを追加することはできないでしょうか。</li> <li>・妊婦届の場所は、保健センター、子ども家庭支援センター以外が約4割となっています。約4割の妊婦は、保健師の面接を受けていない可能性があります。保健センター</li> </ul>

<p>約6割～7割が知らない状況である。</p> <p>以上の状況より、食に関する情報の普及啓発や保健センターの（健康課）の周知を強化する必要があると思いました。</p>	<p>で引換券をプレゼントすることにより、4割の方々が健康センターへも来所し、保健師の面接を受けるきっかけになればと思います。若年層への保健センターの周知や妊婦の面接数の増加、クックパッドや野菜摂取量の普及など食育に関することの充実強化に期待します。</p>
<p>●【重点課題2】に多様な暮らしに対応した食育の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・孤食になりがちな一人暮らしの高齢者への共食の機会の提供については、食育を通して高齢者と子どもの世代間の交流が出来る場があればと思いました。</li> <li>・高齢者のフレイル予防と栄養については、多様な食品を組み合わせることで摂取すること、孤食など食環境への配慮を含めた食、栄養面からの対策が重要であると言われております。高齢者の食育は、8020運動など歯科保健も重要だと思いました。</li> <li>・高齢者だけでなく、子どもの孤食や貧困の状況にある子どもへの食事提供も重要と思いました。住んでいる近隣で、利用できる場所が必要と思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校単位で、地域の高齢者と子どもと一緒に食育に関する教室を開催するなど、交流の機会を設定する。</li> <li>・健康づくり情報発信協力パートナーのうち、高齢者や子どもの食事の提供にご協力いただける企業を募る（提供条件の検討は必要である）。新たに、協力していただけるパートナーを募り、利用できる場所を増やす。</li> <li>・高齢者のフレイル対策として実施されている内容に、さらに食に関することについて充実強化する。</li> <li>・食育の推進のために、さらに歯科保健対策を充実強化する。</li> </ul> <p>(例：1歳半～3歳児健診の期間、または3歳児健診以降～就学前の期間に歯科健診を実施する)</p>
<p>●重点課題2に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・孤食になりがちな一人暮らしの高齢者への共食の機会の提供</li> <li>・貧困の状況にある子どもへの食事提供など（資料5、12）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤食になりがちな一人暮らしの高齢者への共食の機会の提供</li> <li>・貧困の状況にある子どもへの食事提供など</li> <li>・空家など、一人暮らしの高齢者が集える場所を提供し、地域で貧困状況にある子供たちに、元気な高齢者が食事を提供する仕組み作り</li> </ul>